

1 年 2 組 道徳科学習指導案

授業者 岡本 淳子

1 主題構成表

主題名 だれにでもやさしく
資料名 はしの 上のおおかみ

■ 内容項目 B 親切、思いやり
身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。

■ 価値の分析

- ・ よりよい人間関係を築く上での基本姿勢として最も大切なことが、相手に対する思いやりの心を持ち、親切にすることである。
- ・ 思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、励ましたり、援助したり、温かく見守ったりするような親切な行為として表れる。
- ・ 人との関わりは年齢が上がるとともに範囲が広がってくるので、思いやりの心を持ち、親切にする対象も身近な人からすべての人へと広がっていく必要がある。
- ・ 相手の立場を理解し、相手の気持ちを想像することで、思いやりの気持ちが親切な行為として表れていく。そのため、自己中心性が残る低学年の子どもが、相手の立場や気持ちを推し量り、親切な行為をしようとする心情をもつために、子ども自身が他者から思いやりのある行為を受けた時の心地よさやうれしさを想起したり、実感したりすることが必要と言える。
- ・ 特に学校生活においては、学校の人々や友達など様々な人と直接的に多様な関わり合いをもてるようにすることが求められ、思いやりや親切な行為の意義を実感できるようにすることが大切である。

■ 内容項目から見た児童の実態

- ・ 入学した当初は、自分の思いが強いのでトラブルが多く、その都度「どうしたら良かったのか」を話し合ってきた。1学期が、終わる頃には、相手のことが考えられるようになり、トラブルは減ってきた。しかし、「これくらいならいいや。」と考える子どもはまだ少なくない。
 - ・ 親切にされたり、思いやりのある行動を受けた時の心地よさから、自分も相手に親切にすると、相手も自分も気持ちがよいという実体験が少なく、「ほめられるから親切にする」という考えをもっている子もいる。
- (要因)
- ・ 家庭や学校で相手に親切にするという場面が少なく、自分が親切にされてうれしいという体験が少ない。
 - ・ 家の周りの人や学校の人々、友達、幼い子、高齢者など様々な人々との触れ合いが少なく、温かい心で接することの大切さが感じられない児童がいる。
 - ・ 個人差が大きく、クラス全体ではまだまだ温かいクラスとしてまとまっていない。

■ 資料の分析

はしの 上のおおかみ

- ・ 主人公のおおかみは、一人しか渡れない一本橋で、橋を渡ろうとするうさぎを怒鳴り追い返す。いじわるをすることがとてもおもしろくなったおおかみは、毎日用もないのに橋の上で誰かが橋を渡るのを待ち、同じ行動を繰り返す。
- ・ ある日、おおかみは、一本橋の上で、自分より大きな体のくまとぶつかる。おおかみは、あわてて戻ろうとするが、くまに「こうすればいいのさ。」と抱き上げられ、そっと下ろしてもらう。次の日、おおかみは一本橋の上でうさぎに会い、あわてて引き返そうとするうさぎをやさしく呼び止め、「ほらこうすればいいのさ。」と、うさぎを抱き上げ、自分の後ろへそっと下ろす
- ・ おおかみがくまに抱き上げられそっと下ろしてもらう場面と、うさぎを抱き上げてそっと下ろす場面で役割演技を行い、抱き上げられたり抱き上げたりしたあとの感想や、登場人物の役になった子どもの表情などについて話し合うことで、相手の立場や気持ちを考えた行為の大切さについて気付くことができる資料である。

■ ねらい

親切な行為が心地よさやうれしさにつながることに気づき、身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。

■ 展開の構想

- ・ 小さな動物が橋を渡ることができないようにしている時のおおかみの意地悪な気持ちを役割演技を取り入れて、捉えさせる。
- ・ くまに親切にされたおおかみのうれしい気持ちも役割演技を取り入れて、感じ取らせる。
- ・ おおかみがうさぎたちを親切にした時の喜びやうれしい気持ちを感じ取らせる。
- ・ 日常生活の中で、これから友だちにどんな接し方をしていったらよいか考えさせる。

■ 判断力・心情・実践意欲を高める工夫

- [中心発問] 「くまの後ろ姿を見ていたおおかみは、どんな顔をしていたでしょう。」という発問で、くまに親切にされて喜びやうれしさを感じられるような発表ができるようにする。
- [表現活動] 小さい動物の立場になって、子どもが役割演技をする。教師がくまに、子どもがおおかみになり役割演技を行う。役割演技を行うことで、ねらいとする価値内容に気付かせる。
- [学習形態] おおかみの気持ちの変化を考えさせ、思いやりや親切な行為の意義を実感できるように、全体交流をして、話し合う。
- [学習形態] 道徳ノートに親切を記入させ、全体交流する。

■ 道徳科と他の教育活動との関連 (補充 ・ 深化 ・ 統合)

学活「友達と仲良くしよう」→道徳科「はしのうえのおおかみ」→学活「たんじょうかいを計画しよう」相手の立場に立って、親切にしたり思いやりのある行動を取ったりすることについて考え、親切にされても、親切にしても気持ちがいいということに気付かせる。

2 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	◇本時のお話について興味をもつ。 ○「おおかみ」や「くま」のお話です。	・主人公「おおかみ」や「くま」に興味をもてるようにする。
展開前段	あいてのきもちをかんがえよう。 ◇資料「はしの 上のおおかみ」を聞いて話し合う。 ○小さい動物が橋を渡ることができないようにしている時、おおかみは、どんな顔をしていたでしょう。どんな気持ちだったのでしょうか。 ・怖い顔をしていた。 ・意地悪な顔をしていた。 ・みんなが怖がっているなあ。 ・おれって、すごい強いんだ。 ・もっといじわるをしてやれ。 ◎くまの後ろ姿をいつまでも見ていたおおかみは、どんな顔をしていたでしょう。どんな気持ちだったのでしょうか。 ・びっくりした顔をしている。 ・にこにこ笑った顔をしている。 ・うれしそうな顔をしている。 ・びっくりしたな、意地悪されると思っていたよ。 ・くまさん、ありがとう。 ・くまさんは、優しいなあ。 ・ぼくは、とても意地悪だったなあ。 ○うさぎたちを優しく渡していたおおかみは、どんな顔をしていたでしょう。どんな気持ちだったでしょう。 ・にこにこ笑顔になっている。 ・くまさんに親切にされてうれしかったから、ぼくもやってみよう。 ・親切にすると、気持ちがいいなあ。	・お話のあらすじを捉えやすくするために、ペーパサートにして読み聞かせをする。 ・この時のおおかみの顔は、どんな顔をしていたのかを考えさせ、にこにこ笑顔に変わるおおかみの変様につなげていかせる。(怖い顔のマークを貼る) ・全員でおおかみの役割演技を行い、おおかみの意地悪な気持ちを捉えさせる。 ・教師がくまに、子どもがおおかみになり、役割演技を行い、小さい動物たちのくまに親切にしてみらうてうれしい気持ちに共感させる。 ・おおかみの怖い顔から、びっくりした顔やにこにこ笑顔になったことを考えさせる。(びっくりした顔やにこにこ笑顔のマークを貼る) ・くまに親切にされた時の喜びやうれしさを感じ取らせる。 ・にこにこ笑顔になったことを考えさせる。(にこにこ笑顔のマークを貼る) ・親切にした時にもうれしい気持ちになったり、喜びを感じたりすることを押さえさせる。
展開後段	○これから、友だちにどんな接し方をしていっていいでしょう。 ・一人にいる子がいたら一緒に遊んで仲良くしたい。 ・友だちが困っていたら、「どうしたの。」と聞いて助けてあげたいなあ。 ・給食当番の子の机や椅子を進んで運んであげたい。	・学校や家庭での具体的な生活場面を振り返り、親切にされてうれしかったことや親切にしてうれしかったことから、相手の気持ちを考えて思いやりをもって接することの大切さに気付かせる。
終末	◇今日の学習から分かったことを書く。 ・これから、自分はどのようにしていきたいか、友だちとどのように接していっていいかを考え、道徳ノートに考えを書く。	〈変容の見届け〉 ・親切にしたりされたりすると、気持ちがいいと感じ、これからも友だちと助け合い、思いやりをもって生活しようという気持ちをもつことができる。

1年2学期 道徳 実態分析・評価シート

内容項目	教科・領域・活動	内容	評価	よさや成長
B 親切、 思いやり	学活	校外学習では、楽しく活動することについて考えよう		
	道徳	はしの上のおおかみ		
	体育	ボール投げ		
	学活	楽しく助け合う学級遊びについて		
	日常	あいさつ		
	日常	登下校の様子		
	日常	掃除の様子		
	日常	教室の過ごし方		
	日常	給食の様子		
	日常	図書館の使い方		
	家庭	1家庭1ボランティア		

<2学期所見>

評価のしかた 視点 B 親切, 思いやり

道徳の授業
 ・おおかみの行動について考え発表できたか。
 ・友だちとの接し方を振り返り,これからどのように接していったらよいか,考えることができたか。

日常生活(登下校、給食など)
 ・仲良く過ごせるように,相手のことを考えて思いやりをもって生活することができる。